

岡崎を日本の 教育インフラ整備の モデル拠点に

基礎生物学研究所

所長 阿形 清和 氏



教育随想



令和2年8月1日

8月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
基礎生物学研究所
所長 阿形 清和 氏
- この人に聞く…………… 2
カヌー競技日本代表候補選手
宮嶋 愛 氏
- 羅 針 盤 …………… 2
矢作中学校 校長 永野 光雄
- ふれあい…………… 3
大門小学校 教諭 伊藤 扇帆
- 特 集…………… 4
地名の由来に思いを馳せて
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
長寿者訪問 (昭和57年)
- この本を…………… 8

昨年四月に二十九年ぶりに基礎生物学研究所の所長として岡崎に戻ってきました(一九八三〜一九九一年にかけて基礎生物学研究所の助手として在籍)。

私が岡崎を離れている間に、「岡崎高校が公立高校の中で東大合格者がナンバーワンになった」ということが話題となりました。大隅良典さんというノーベル賞者を輩出した基礎生物学研究所より、岡崎の知名度を上げたのではないかと思います。

それゆえに、この一月に岡崎高校の出前授業の際は、少しどきどきしながら訪れました。公立で東大合格一番になったのだから、何か素晴らしいインフラ整備があるに違いないと思っていたからです。しかしで

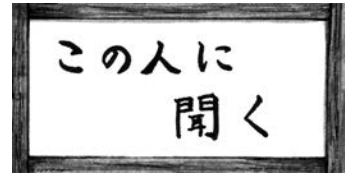
す。予想は完全にはずれ、耐震工事は入っているものの、特に整備された感じはなく、二十一世紀というよりも二十世紀の高校という感じしかしませんでした。「これが天下の岡高か」と思わずため息をつきました。そして、過去にも同じ感情を抱いたことを思い出しました。それは、私が二十二年ぶりに教授として京大に帰ったときに、生物実習室の顕微鏡が昔とほとんど変わっていないのを見たときと同じでした(二十二年前にすでに貧弱な顕微鏡だったものがそのままだった)。日本の教育行政はどうなっているんだと驚きを越えて怒りにも近い感情を抱きました。

出前授業の翌週に、たまたま文部科学省の役人の愛知県人会があり、



地元議員と一緒に参加しました。その場には六名もの岡高出身者がいましたので、日本の教育インフラの惨状を訴え、彼ら・彼女らに教育インフラ整備を託しました(その後のコロナ禍で日本の教育インフラの貧弱さが露呈されました)。岡崎が日本の教育インフラ整備のモデル拠点になってもらいたいという強い気持ちを抱いています。

(あがた きよかず)



自己ベストを目指して

カヌー競技日本代表候補選手

宮嶋 愛氏

中学校の体験入部でカヌーと出会う。その後、カヌー部に入部して競技を始めた。卒業後は、光ヶ丘女子高等学校へ進学した。カヌー部はなかったが、高校でもカヌー競技を続けた。二〇一九年茨城国体成年女子カヤックシングルでは、二百メートル・五百メートルで優勝し、ナショナルチーム入りを果たす。現在は、人間環境大学の職員として働きながら、東京オリンピックを目指し、日々練習に励んでいる。

「カヌー競技をやる上で、大切にしていることはありますか」

常に自己ベストを目指すことで。大学一年生のときに虫垂炎になり、カヌーを漕げない日々が続いた

ことがあります。夏の大会前だったので、今まで練習を頑張ってきたのに、カヌーを漕ぐことのできない悔しさがありません。手術を終えてからも、二か月間、安静にする日々が続きました。寮に残って一人で過ごす時間は、孤独でつらいものでした。シスターから言われた言葉を思い出しました。それは、「勝ちたいと思うより、自己ベストを出すことを大切にするとよい」という言葉です。その言葉のおかげで、何を目標に東京に来たのかということを自問自答しながら、カヌーに対して強い思いをもち続けることができました。今も、自己ベストを目指して練習に励んでいます。

「自己ベストを出すためにどんな練習をしていますか」

カヌーを漕ぐのは、思っている以上に大変です。ただ乗るだけでも二か月ほどかかりました。力もいるし、持久力もいります。さらに、バランス感覚を高めることなど、多くのテクニクを磨かなければなりません。また、私自身について言うと、海外の選手に比べて体が小さいので、動きを大きくしたり、パドルをたくさん回したりすることも必要になります。身長が一八〇センチもある海外の選手と同じ動きをしているのは、結果はついてきません。その

ため、「できるだけたくさんパドルを回すこと」「前に前に押し出すように漕ぐこと」を心がけたり、効率よく前に進むためには、どうしたらよいのかを考えたりしながら練習に取り組んできました。テクニクを磨き、それが結果に結びついたときは、とても達成感があります。

「岡崎の子供たちにメッセージをお願いします」

中学校時代の厳しい練習のおかげで、今の私は、確かな練習が結果につながると思えるようになり、常に平常心で競技に臨むことができている。だからこそ、練習には、いつも全力で取り組むようにしています。皆さんも日々の積み重ねを大切に、自分で決めたことを最後までやり遂げてほしいと思います。これからも調子のよいときはおごらず、悪いときには自分を信じて、一步一步に進んでいきます。

氏名 みやじま あい
生年月日 平成八年十月三十一日
住所 岡崎市宮石町



教師力アップ

矢作中学校

校長 永野 光雄

大量の退職者と入れ替わって若い教員が増えている。教師力アップが喫緊の課題である。現在は、新任教員の多くに拠点校指導員が指導にあたるなど、手厚い指導体制が図られている。ところで、教師力とは、そもそも何であろうか。いろいろな考え方があの中で、私は、あえて生徒指導力を第一に挙げたい。

生徒指導力とは、文字通り生徒や児童を指導する力である。それは、生活指導とは異なる。長年、生徒指導に携わってきて生徒指導三つの機能（共感的理解・自己肯定感・自己決定）を常に意識しながら、子供と共に歩んできた。しかし、最も大切



認められるということ

大門小学校

教諭 伊藤 扇帆

Aとの出会いは、二年生の春だった。Aは、普段は優しく、友達とも仲よくできる子である。また、興味のあることに対して熱中し、自分で試行錯誤をしながら工夫もできる。一方で、人の話を聞くことが苦手なところがある。そのため、友達とトラブルになることがあり、ほかの子供からの相談も多かった。

私は、Aが少しでも人の話を聞くことができるようにと、環境作りや支援を行ってきた。その成果が表れ、少しずつ人の話を聞くことができるようになってきた。ところが、再び友達とのトラブルが起きた。当事者を呼び、話を聞いていると、突然Aが、「先生は、どうして僕ばかり悪者にするの。先生は、僕が嫌いなんだ。」と、すごいけんまくで言ってきた。私は驚きと同時に、これこそがAの本音だと感じた。Aは、私と話を

しているときから、「自分は認められていない」と、感じていたのかも知れない。

Aには、良いところがたくさんある。そのAの良さに気付いていることを伝えたかった。また、周りの友達がAの良さを知ること、Aが自分の長所に気付くきっかけになるのではないかと考えた。

そこで、Aの自己肯定感を高めるために、褒める場を作っていくことにした。Aが、授業中に発言したことを全体場で褒めたり、よい挨拶ができていることを、直接、Aに伝えたりした。しかし、Aは、「うん」と言うだけで、あまり反応が見られなかった。どうしたらA自身が認められたと感じることができのだろうか、私は悩んだ。そして、思い付いたのが、授業以外のやる気になっていく場面で褒めるということだった。その機会を学芸会に求めた。

小学校に入って初めての劇。子供たちは、やる気いっぱいだった。初めてのせりふ合わせの日、Aは、大きな声でせりふを言うことができた。「初めてなのに、こんなに大きな声で言えるのはすごいね。」

と、全体の前で褒めた。すると、他の子供たちから自然と拍手が沸いた。Aは笑顔になっていた。自分の頑張りが認められたと感じた瞬間だったのだろう。

日に日にAの演技は上達していった。ある日の練習では、自分で考えた動きを付け、体育館に響き渡る声でせりふを言った。

「体育館の後ろまでよく聞こえる声で、動きまでついて、さらにパワーアップしているね。」

と、Aを褒めた。するとBが、「Aは、学芸会のプロだね。どうしたら、そんなに上手に言えるようになるの。」

と、Aに尋ねた。

それ以来、Aは友達にアドバイスするようになった。自分が褒められる姿だと思った。学芸会で自信をもったAは、友達とのトラブルも少しずつ減っていった。

自分が認められていることを実感する場をいかに作ることができるのか、それがAとの経験を通して私自身が学んだことだ。



なのは、どんなに指導の難しい子供

であっても、その子供を心からかわいと思えることだと思う。人の心は鏡なので、嫌だと思えば、口になくとも必ず相手に伝わる。大人もそうだが、人は、好きな人の言うことしか聞かないから大変だ。では、どうすればどんな子供もかわいと思えるのだろうか。それには、全ての子供を受け入れられる大きな器をもった教師になるしかない。いろいろな失敗を繰り返しながら、謙虚さを失わず、人の声に耳を傾け、自身を成長させるしかないのである。さらにLGBTQ+や愛着障害等、子供を理解するために、常に最新のことを学ぶ姿勢も大切になりたい。

生徒指導力のある教師は、授業で、教室にいるすべての子供と瞬時にアイコンタクトをとる。そして、子供一人一人の状態を的確に把握しながら授業を進めていく。

教師力を高めるには、失敗を恐れず、自分を高め、子供を理解し、成長させるための研修を、地道に継続する覚悟が必要である。

地名の由来に思いを馳せて

～岡崎の「難読町名」について考える～



▲矢作（やはぎ）神社 秋の大祭

矢作（やはぎ）町【矢作東】

日本武尊が当地に駐留し、対岸の賊を平定するに際し、川辺に自生する多数の矢竹を作り、献上して大勝したことによるという。

旅行をしたときなどに、「難読地名」に出合い、「何と読むのだろう」「この地名には、どのような意味が隠されているのだろう」などと、思うことがある。

私たちが住んでいるこの岡崎市内にも、千方町（ぜまんぢよう）町や上衣文（かみそぶみ）町など、多くの「難読町名」がある。また、康生町や矢作町など、岡崎市民であるならば、ほとんど誰でも読めるが、その由来が、興味深い町もある。

地名は、その土地の地形や、特産物、生息する動植物、幕府や藩の行政機関、神社や城といった建物、住んでいた人々の職業や身分、出来事など、様々なこと由来していると言われる。つまり、地名には、その土地の歴史が集約されていると言ってもよいだろう。

次代を創る子供たちが、市内の「難読町名」と出合い、その語源や由来、歴史を知る中で、さらに郷土を愛する心を深めてほしいと願う。

読み方が難しいと思われる町名一覧（【 】内は小学校の学区）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ① 菅生（すごう）【三島】 | ⑪ 鹿勝川（かかつがわ）【豊富】 |
| ② 久右エ門（きゅうえもん）【梅園】 | ⑫ 下衣文（しもそぶみ）【豊富】 |
| ③ 稲熊（いなぐま）【梅園・井田】 | ⑬ 鶴巢（とうのす）【本宿】 |
| ④ 百々（どうど）【大樹寺】 | ⑭ 上衣文（かみそぶみ）【本宿】 |
| ⑤ 米河内（よなごうち）【常磐東】 | ⑮ 舞木（まいぎ）【山中】 |
| ⑥ 蔵次（くらなみ）【常磐東】 | ⑯ 桑谷（くわがい）【竜谷】 |
| ⑦ 渡通津（わつづ）【奥殿】 | ⑰ 新堀（にいぼり）【矢作南】 |
| ⑧ 蓬生（よもぎゅう）【生平】 | ⑱ 牧御堂（まきみどう）【六ツ美西部】 |
| ⑨ 保久（ほっきゅう）【下山】 | ⑲ 坂左右（さかそう）【六ツ美中部】 |
| ⑩ 富尾（とんぴゅう）【下山】 | ⑳ 在家（ざいけ）【六ツ美中部】 |

康生（こうせい）町
【連尺】
 徳川家康公生誕の地にちなんで名付けられたとされる。竹千代君（家康公）が岡崎城内で誕生した時、この井戸の水を汲み、産湯に使用したとされている。



▲東照公産湯の井戸

仁木（にっき）町
【細川】
 三河国は承久の乱で足利義氏が守護職になり、多くの足利一族が発生した。仁木八幡宮は、鎌倉時代にこの地に移り住んだ足利美国が仁木太郎を名乗り、仁木氏の祖となった場所である。



▲仁木八幡宮

花崗（みかげ）町
【梅園】
 岡崎の特産である花崗石（みかげいし）の加工の中心地であったことから名付けられたとされる。軒を連ねる通りの名を石屋町通りと言い、歩道には、正方形の花崗岩が点々とあしらわれている。



▲石屋町通りの歩道

小美（おい）町
【男川】
 「おい」は元は「をみ」であり、これが転じて「をい」と呼ばれるようになったと言われる。小美観音は、小美町に位置し、南無十一面観世音菩薩が祀られている美玉山廣園寺がある。



▲小美観音

生平（おいだいら）町
【生平】
 額田郡生平村を前身とする。「大多伊良」とも書く。



▲生平小学校正面玄関

木下（きくだし）町
【宮崎】
 都へ運ぶための木を乙川へ流したので、木を下した村という意味から名付けられたとされる。



▲木下町の森林

舩越（へごし）町
【矢作北】
 渡し場を意味する平越・戸越の発音がなまって変わったとも、大船が沈没した際に船首の舩先が当地に向いたことに由来するとも言われている。



▲舩越町の願照寺



合歓木（ねむのき）町
【六ツ美中部】
 槭木・合ノ木とも書いた。この地にある正願寺の境内に、四抱えもある大きなねむの木があったということから、この名前にしたとされる。



▲正願寺のねむの木

法性寺（ほっしょうじ）町
【六ツ美西部】
 天台宗法性寺六坊が存在したことが由来とされている。法性寺ねぎは、法性寺がその名の由来で、法性寺町を中心とする地域で栽培されている地場野菜である。



▲法性寺ねぎ

八帖（はっちょう）町
【連尺】
 岡崎城との距離が8町ほどあったことに由来すると伝えられる。八丁味噌は、岡崎城から八丁（約870m）の距離にある八帖町（旧八丁村）で作られている。江戸時代初期より、旧東海道を挟んで向かい合った2軒の老舗が伝統製法で造り続けている豆みその銘柄である。



▲八丁味噌蔵

千万町（ぜまんぢょう）町
【宮崎】
 この地域は作手の管轄で「番所」の出張所があった。これを「出番所」（でばんしょ）と言い、それがなまって「ぜまんぢょう」になった。築後約300年と言われる茅葺屋敷（2014年3月をもって営業を終了）を中心に、敷地内を流れる小川、屋敷裏の棚田など、今なお懐かしき日本の風景が残っている。



▲千万町町の茅葺屋敷



●総合学習センター改修状況

【工事進捗状況】

現在、令和三年度四月のグランドオープンに向け、着々と工事が進められている。多目的ホールは、鉄骨が立ち上



◇総合学習センター外観（完成予想図）

【改修内容】

多目的ホールは、ホールとしての利用だけでなく、パーティションで仕切り、講義や会議など、目的や用途に応じて利用できるようになる。

研究所には、簡単な実験・実技ができる洗い場付きの研修室や、グループワークも可



◇多目的ホール（完成予想図）

●ハートピアだより

ハートピアの通所生には、様々な活動を通して、経験値を増やしてほしいと考えている。そこで、年に数回、岡崎市のバスを借りて、体験活動や社会見学に出かけている。

梅雨の合間の晴天となった七月二日、自然体験教室の一環としてホテル学校に行った。午前中は、館内でホテルのクイズをもとにしたホテル学習を楽しんだ。午後は、自然の中を歩きながら、植物や昆虫を見つめるビンゴゲームで汗を流した。

参加した九人全員が昨年度からの通所生。久しぶりに会う子供たちも多く、様々な場

面でも、話し声や笑い声がよく聞こえる一日となった。

笑顔で家に帰って行く子供たちを見送りながら、子供たちは、今日の行事を、友達とのコミュニケーションを楽しみに参加していたのだなど、うれしい気持ちでいっぱいになった。

七月二日、岡崎市少年自然の家を利用し、デイキャンプを実施した。

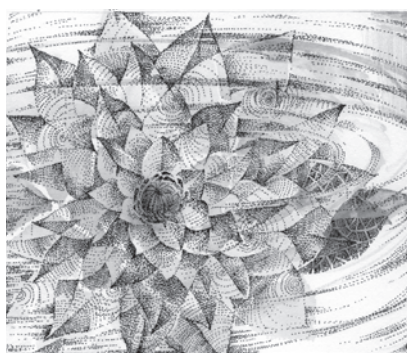
【ハートピア上地】

大自然の中、みんなで協力してカレーを作ったり、落ち葉スキーやフィールドアスレチックで遊んだりしたことは、子供たちにとって貴重な体験となった。活動中、自然豊かな山の中に、子供たちの楽しそうな声が響き、笑顔があふれていたのがとても印象的であった。

今、コロナ禍で、ハートピアの中でも制限された生活を送ることになり、もやもやし

た気持ちで毎日を過ごしている子供たち。今回の体験活動を通して、そのストレスが少し解消できたのではないかと思っている。今後も様々な体験活動を通して、子供たちの成長を支えていきたい。

ハートピアでは、二学期以降も、社会見学や農業体験、環境学習などを計画している。新しい生活様式が求められており、これまでと同様にはできないこともあるが、健康、安全に十分配慮し、通所生の成長を願って、体験活動を充実させていきたいと考えている。



●岡崎版GIGAスクール構想

「岡崎版GIGAスクール構想」では、「学び方改革」と「働き方改革」の融合を図り、それらを加速させる教育ツールとして「Myタブレット」を位置付け、教育の質の向上を目指す。

目標

本市の全ての子供が、自らの特性を生かし、誰一人取り残されることなく、個別最適化された学習に取り組めるようにする(Handy, Society5.0)の時代で活躍し、自己実現できるための資質・能力の育成を目指す。

特色

①ICT環境の整備

二学期の始めまでに、市内全小中学校の校内ネットワーク整備が完了する。これにより、全ての教室のWiFi環境が整い、日々のあらゆる授業でインターネットを利用した学習が可能となる。

②Myタブレットの活用

小学校四年生以上に、中学校卒業まで、一人一台端末を貸与し、「Myタブレット」としてフル活用できるようにする。

③学び方改革

「Myタブレット」の活用を通じ、一斉授業から学習者主体の授業への転換を図る。子供たちが、課題解決のため、必要な情報をインターネットで調べたり、協働学習ツールやビデオ通話で意見交流したりする等、主体的・対話的で深い学びの展開を目指す。

④働き方改革

教職員用のiPadも併せて整備する。これによりICTを活用した教職員の働き方改革「Okazakiスマートワーク」との連携を図り、ペーパーレス化を進めるとともに、高速エコプリンタの導入等による業務の円滑化を目指していく。

岡崎版GIGAスクール整備スケジュール

整備種別	内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月
① ネットワーク工事	<ul style="list-style-type: none"> ●32校 <ul style="list-style-type: none"> ・有線LAN工事有 (32校) ・Wi-Fi常設工事 ・充電保管庫設置 ●35校 <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi常設工事 ・充電保管庫設置 	取得承認済	調査設計	施工工事	一部工事	授業での利用開始	
② 既存 iPad再整備 中学校 教職員用に転用	<ul style="list-style-type: none"> ●共用タブレット ・再任用教員用 ・非常勤講師用 		回収	再設定	再配付	オンライン研修	授業・校務等での利用開始
③ 新規 iPad 整備 教職員用 約1,850台	<ul style="list-style-type: none"> ●Myタブレット ・正規教職員用 ・常勤講師用 ・Microsoftアカウント 	取得承認済	仕様設計	調達設定	納入	オンライン研修	授業・校務等での利用開始
④ 新規 iPad 整備 小6～中3年用 約14,550台	<ul style="list-style-type: none"> ●Myタブレット ・Microsoftアカウント 	取得承認済	仕様設計	調達設定	納入	初期指導	授業での利用開始
⑤ 新規 iPad 整備 小4・5年用 約9,700台	<ul style="list-style-type: none"> ●Myタブレット ・Microsoftアカウント 	予算承認済		入札事務		取得承認後	初期指導
⑥ 既存 iPad再整備 小1～3年用 共用約2,000台 ※新規iPad	<ul style="list-style-type: none"> ●共用タブレット ・Microsoftアカウント 				小1～5年 既存共用iPadの利用	再設定 再配付	利用開始

※ 小1～3年の新規iPadの整備は検討中

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

甲
山
中

森
本
都
美

長寿者訪問 (昭和57年)

写真提供：常磐中学校

昭和五十七年九月、第一回生徒会長寿者訪問を行った。全校生徒が「長寿お祝い」の手紙を書き、学区内の八十歳以上の高齢者に、贈り物と一緒に届けるというものである。写真は、そのときの様子である。それまでは敬老会を学校で行っていたが、学校まで来られない高齢者のために、訪問する形にした。現在でも、市内の多くの小中学校で、学区の敬老会が開催されたり、長寿者への訪問を行ったりして、高齢者との触れ合いの場を設けている。

核家族化が進み、祖父母と一緒に生活する子供が減少している。高齢者との触れ合いを通して、感謝の気持ちをもつとともに、高齢化社会の問題について考える機会にもしたい。



東京オリンピックという舞台を目指して、毎日練習に励む宮嶋氏。延期をもつとせず、日々カヌーを漕ぐ。常に同じ速さで、また、男性陣に負けないくらいのスピードで漕げるように練習しているという。熱い気持ちと共に、今日も練習場へ向かう。自己ベストを目指して。

とホ

葉目



▲星を観る会(愛宕小)

筒針町は、矢作川の堤に沿って開墾された町であり、はじめは堤墾(つつはり)と称され、のちに転訛(てんか)したとされている。地名には意味がある。その名がどのように生まれたのかをじっくり考えるのは、私たちが暮らす土地を理解するうえで、重要なことである。

この本を



*子どものミカタ
日本評論社

山登 敬之
¥1,600

心に残った一文
いまや私の脳も発達障害ブームに毒されてしまったようだ。

発達障害に対する理解が進み、学校現場でも個に対する適切な支援が施されるようになってきた。その一方で著者は、精神科医の立場から、子供の「味方」となって、正しく子供の「診方」を行うことを訴える。それは、教師にも共通する。著者は、子供を精神医療の変遷の中で、医療的枠組みだけに囲い込んで理解しようとする傾向に抵抗を感じると訴える。本当の子供理解とは、どうあるべきかを考える機会となる一冊である。

経験から挙げられた事例には、目の前にいる子供と重なるものも多くあった。

- *EdTechが変える教育の未来 佐藤 昌宏
インプレス ¥1,600
 - *自然に学ぶ 白川 英樹
宝蔵館 ¥1,200
 - *学校の法務 名川・岡村法律事務所
時事通信社 ¥2,400
- 翔南中 児玉 洋行